

十月に世界遺産調査団来島

第6回屋久島世界遺産地域連絡会議開催

八月六日、本年度第一回の連絡会議が鹿児島市で開催され、十月のIUCN(国際自然保護連合)調査団の受入れや遺産地域等におけるトイレ、登山道の荒廃、低公害車普及促進などの問題について話し合われました。

この会議は、世界遺産に登録された屋久島の適正な保全管理を推進するため、関係機関相互の連絡調整を行う目的で年二回程度実施されており、環境庁(九州地区国立公園・野生生物事務所)、林野庁(熊本営林局)、鹿児島県、鹿児島県教育委員会、上屋久町及び屋久町の各機関で組織されています。

島キップの検討など、次回には具体的な提案をする旨の表明があり、屋久町からは、電気自動車等の低公害車普及促進へ協力要請等がありました。環境庁及び林野庁からはトイレの設置についての提案がありました。今回のこれらの議題は、準備不足もあり、提案や問題提起にとどまりましたが、次回



自然休養林情報

太古の世界ヤクスギランド

昭和49年に屋久島自然休養林の一つとして指定された荒川地区は、ヤクスギランドの名称で親しまれ屋久島の原生的な森林を容易に観賞できます。

仏陀杉等樹齢のヤクスツガ、ヤヒメシヤラは太古のわれながら森林浴が楽しめ、また藩政時代の切り株、試し切り跡は人と森林の共生の歴史がしのべられます。



遊歩道は150分までの4つのコースで吊り橋、ベンチ、展望台等の施設があり、林内の渓谷は、滝、淵、広河原を作り、汚れを知ることのない清流は自然そのものです。

から具体的な対処方策を検討していくよう確認しました。また、世界遺産地域の管理状況把握のため来島するIUCN調査団への対応については、事務局である環境庁から来島の日程、世界遺産地域保全状況報告書(準備資料)の作成状況、来島時のスケジュールの調整等について説明や協力要請がありました。

世界遺産地域の森林パトロールを実施

山岳地域の保全、巡視・指導活動等の一環として、七月二八日に花山登山道入口から林野庁の花山試験地までの森林パトロールを行いました。今年度は森林パトロールの目的を、世界遺産地域(森林生態系保護地域)の状況把握、入林者の把握と自然保護の啓発、著名スギ及び巨木等の確



ドラゴンボートで力走

第一六回屋久島御神山祭りのドラゴンボートレースに、保全センターチームが今年も参加、保全センターの存在をアピールする絶好の機会となりました。

当日は、営林署や環境庁(サブレんジャー)の皆さんもチームに加わり出場、家族や地域の人の声援を浴びる中、巧みなオールさばきと見事な



屋久島の植物



ヤクシマサルスベリ (みそはぎ科)

葉は卵状長楕円形で対生、夏季、枝の頂上に密で多数の白い円錐花序をつける。亜熱帯の琉球、台湾まで分布するシマサルスベリの変種で屋久島、種子島、奄美大島に分布する落葉高木。庭園に広く栽培されているサルスベリと同じ仲間、日本ではこの一種のみ自生する。

新高塚小屋で登山者行方不明

去る七月二〇日の夜、新高塚小屋に宿泊していた登山客(七十才の女性)がトイレに行ったのか、小屋を出たまま行方が分からなくなりました。屋久島警察署等地元関係者や遭難者の家族の方々の懸命の搜索にも係わらず、未だに不明です。

保全センターでは、搜索に便利な白谷専用林道の通行を承認したり、遭難救助利用も設置目的の一つである高塚管理棟を有効に使用していただくなどして搜索に協力していきます。

二戦目は強豪が出さるう中、決勝進出をかけた意気込んだものの惜しくも敗れてしまいました。レース終了後には、宮之浦川のほとりで懇親会を開催し、夜が更けるのも忘れてお互いの健闘を讃えるところも次回での奮起を誓いました。

今年度の入島観光客数は昨年を超えるか

ゴールデンウィーク、夏休みと観光シーズンが過ぎ、今年度も半分くらい終わろうとしています。今年度の屋久島への観光客は、昨年に比べて多いのでしょうか？それとも…

屋久島自然休養林・ヤクスギランドのこれまで(4月1日～8月31日)の入場者数から推定してみました。

【推定する上での背景】

- ヤクスギランドの入場者数は、入島観光客とほぼ同じ傾向で推移している(屋久島生態系モニタリング調査報告書・1996年度、表-1参照)。則ち、屋久島入込み客(253千人、平成8年度・以下同じ)の58%(150千人)が入島観光客、その約半数(72千人)がヤクスギランドの入場者数となっている。
- 昨年(平成8年度)は、それ以前の2年間に比べて入込みの伸びが鈍化した。入島観光客こそ10%強と推定されたが、ランドは3.2%の伸びに留まり、入込み客全体では1.5%減少した(表-1参照)。原因としては、夏の時期の台風による入島客の落ち込みや、世界遺産のブームがここに来て一段落したなどの意見もある。屋久島生態系モニタリング調査報告書の分析では、「自然遺産登録地域との屋久島の評価は続き、現水準の観光客の入島は続くであろう」としている。

【分析と推定】

- 今年度のこれまでのヤクスギランドへの入場者数は、表-2に示したとおり4月が減少しているもののそれ以後は各月とも増加、トータルでも9.3%の増加となっています。中でも6月、8月は、119.8%、131.3%と大幅な伸びとなっており、特に8月は台風の襲来が2度ありましたが、昨年に比べこの影響をあまり受けず伸びています。また、現在までの結果に、9月から3月までの入場者数が昨年と同じだと仮定した場合、年間の入場者数は4.3%の増加となります。これは、世界遺産のブームが一段落したとはいえ、団体客の増加や屋久島の大自然に憧れる人々がまだまだいるのでは…。

- 結論として、今年度の屋久島への観光客は、昨年に比べ多いのか少ないのかとの間には、今後もこのように推移すれば、昨年よりは10%程度増えるのも夢ではないでしょう(期待を含めて)。

表-1：入込み者の対前年度増減 (単位：%)

種別	6年度	7年度	8年度
屋久島入込み客	111.6	109.9	98.5
入島観光客	112.0	110.1	110.8
ヤクスギランド入場者	114.3	117.2	103.2

注：入島観光客数は、平成6・7年度が入込み客の52～53%、平成8年度が58%と推定されている(種子屋久観光連絡協議会資料より)。

表-2：平成8・9年度前期のヤクスギランド入場者数の推移 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	小計	9月～3月	計
8年度	6,719	7,987	4,939	6,747	6,726	33,117	38,579	71,696
9年度	6,229	8,377	5,916	6,858	8,830	36,210	(38,579)	(74,789)
対前年比(%)	92.7	104.9	119.8	101.6	131.3	109.3	-	104.3